

- 1 どの窓も地獄や春の帆を映し
- 2 青き踏むくるしみの琴空にあり
- 3 鳥帰る東京液化そして気化
- 4 空に置き去りの蹄鉄梅咲いて
- 5 鳥雲に入るリブートを繰り返す
- 6 若草や壺割るやうに名を告げし
- 7 盆梅の影のみ揺るゝ華燭かな
- 8 毛を刈られ羊は多面体となる
- 9 千葉は春高速道を空に架け
- 10 子宮からつづく坂道春は昼
- 11 絵の中にもみふらここは静止する
- 12 山笑ふ膿のごとくに湯を出して
- 13 風船に尻載せてゐる少女歌手
- 14 貨車錆びて百科事典の桜の項
- 15 少女みな写真のなかへ夕桜
- 16 流刑地に猫背の機械月朧
- 17 ヌーヴェルヴァアグ扉に蝶の貼られゐて
- 18 藍甕のほとり騎乗し恋愛し
- 19 万華鏡に詰めて胡桃と太陽と
- 20 花は葉にラジオのやうな名古屋城
- 21 星条旗の青い部分を昼寝かな
- 22 水脈の末端として夜の新樹
- 23 五月闇とは畳まれし帆のやうに
- 24 百合の香や夜の汚水の低きへと
- 25 パレードを終へし女体へ青時雨
- 26 夏空や油膜のごとく怠けゐて
- 27 塔（あららぎ）を空へ沈めてゆく昼寝
- 28 溺愛や鉄に映る扇風機
- 29 パラソルのをみな笑顔にして深傷
- 30 六月の空より拾ふ活字かな
- 31 精密な機器が必要熱帯魚
- 32 水色の足りない午後を心太
- 33 油絵を深きに飾り夏館
- 34 水木咲くときどき眠る大時計
- 35 白百合よコロスは井戸のやうに在り
- 36 一列に馬を冷やせり蔵書印
- 37 約束を初期化してゆく初夏の指
- 38 逝く夏のギターを愛の循環す
- 39 ゼラチンのやうな昼寝の農場主
- 40 夏草が蛇となるこの教室で
- 41 この穴を所有してゐる天の蝉
- 42 夏草を科学忍者は軽く踏み
- 43 香水をこぼして神を追ひ払ふ
- 44 離陸てふ白き光や砂日傘
- 45 順喫茶夏のひかりの捨てどころ
- 46 掬はれて少しく泳ぐ心太
- 47 赤姫に臓腑のなくて日傘かな
- 48 水は水に欲情したる涼しさよ
- 49 祝婚や亜鉛の翼たたまずに
- 50 果つことのなき休暇とも纏足とも

- 51 街といふかがやく網を残暑かな
 52 切り口を運河に向けて西瓜売る
 53 昼月といふは未来の弦楽器
 54 ひとりだけ菌のやうに白く居り
 55 秋空のなかばで終はる避雷針
 56 総崩れの寺引いてゆく花野かな
 57 灯籠に風を描きたくなりにつけり
 58 十万億土に秋の団扇がひとつきり
 59 秋高し近江は青を重ねたり
 60 鴟飛んで余白を食べる近江かな
 61 コスモスは咲いてゐないと兵士のやう
 62 ブラックコーヒーといふ喪装や秋晴れに
 63 こほろぎを聴く図書館の設計図
 64 時を告げさうな沼なり秋彼岸
 65 箱が昇る塔の中心水の秋
 66 黄落のなか牛乳をはこぶかな
 67 コスモスや深海を行く盾を得て
 68 積まれたる本の急所や暮の秋
 69 写真館のやうな冗談秋晴れて
 70 ひとひらの古材を焦がす紅葉かな
 71 牛乳をあたたためてゐる萩の庭
 72 名月やむかしの猫を膝の上
 73 頼朝に重なる馬の彼誰時
 74 街娼を独逸の城のやうにかな
 75 天堂にダンテの拾ふ定期券
- 76 歌積んで山河を成せと偽勅かな
 77 一筆にふくまれてゐる冬の虹
 78 冬ぬくしバターは紙に包まれて
 79 健康な裸木がある総武線
 80 金屏風広げ美食を信じけり
 81 水鳥に交りて姉の来る時刻
 82 水涸れて少女のための貨車過ぎる
 83 冬青空力士の妻は天使かな
 84 冬天の北イタリアへ紐の王
 85 絶望の城のごとくに暖炉かな
 86 ガラス器に罪のひとつとして牡蠣は
 87 モスクワ郊外のやうにがらんと冬晴れ
 88 暗黒大陸の写真を壁に冬館
 89 冬青空遠くの妻は楽器欲る
 90 暖房や絵硝子の濃き緑色
 91 猫は尾を塔のごとくに日脚伸ぶ
 92 討入や少女漫画の花泡立つ
 93 聖夜わが領土は半円のケーキ
 94 青きもの積みみて青空聖誕祭
 95 粉末の花を求めてクリスマス
 96 老犬は睡魔と遊ぶ大晦日
 97 幼帝の包まれてゐる寒き綿
 98 猫といふ受話器を膝に山眠る
 99 大寒の鏡より出て鏡を拭く
 100 月と日にわれてあはぬよ枯木山

